

2007 年度

科目名  日本文学特講Ⅲ	対象学科・学年 専攻科教福1回生	担当者  鈴木 利一
授業テーマ 古事記・日本書紀歌謡および萬葉歌における挽歌の研究		
授業の概要と目標  萬葉集前史と言っている古事記・日本書紀歌謡から萬葉歌への流れを具体的作品の読み解きからたどりたい。		
評価方法  講義への出席状況 (40%)、課題の提出状況 (40%)、課題に取り組む姿勢 (20%) 等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト 『萬葉集』全歌が原文と共に載っているものなら何でもよい。	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容  本年度は、挽歌の成立と展開を各作品の読みに即してたどります。講義形式は演習方式とし、発表担当者の作成した資料に基づいて、討議を重ねる中で、当該作品への読みと理解を深めていきたいと考えています。 まず、前期講義では、古事記・日本書紀に収録された歌謡中の挽歌作品を中心に読み進めます。講義スケジュールと扱う作品は以下の通りです。  ①上代挽歌史概説 (1～3週) ②古事記歌謡の挽歌 (4～10週) ③日本書紀歌謡の挽歌 (10～15週)  後期講義では、萬葉集に収録された挽歌作品を中心に読み進めます。講義スケジュールと扱う作品は以下の通りです。  ①天智天皇挽歌群 (1～5週) ②天武朝の挽歌 (5～10週) ③持統朝の挽歌 (10～15週)  上代は、残されている文献資料が限られているため、発表担当者は、可能な限り資料探査に努めて下さい。その課程では、遣唐使等によって舶載された可能性のある漢籍へのアプローチも必要となります。また、新たな資料探査法としてインターネット上の図書館・研究期間のサイトを利用することも必要になってきます。そうしたオンライン情報や電子データの取り扱いについても、機会のあるごとに解説し指導していく予定です。さらに、民俗学や歴史学・考古学等の関連諸学による成果にも触れ、総合的な視点から上代日本文学をとらえる能力を養っていきます。		